

## 全産廃連

# 死亡者数2人減

## 2016年労災発生状況

(公社)全国産業廃棄物連合会は5月、2016年の「産業廃棄物処理業における労働災害の発生状況」についてとりまとめ、公表した。産業廃棄物処理業の労働災害による死亡

者数は16人で前年度比2人減。死傷者数(休業4日以上)は1320人で前年比40人増。労働災害の頻度を示す度数率は8・0と他の業界に比べて高く、災害の重さを示す強度率

別では「墜落・転落」21・1%、「はさまれ・巻き込まれ」19・9%、「転倒」15・4%となり、死傷災害全体の約6割を占めた。このうち、「転倒」は前年比26件増と増加傾向にある。

事故の起因物別では「動力運搬機」30・3%、「仮設物、建築物、構築物等」19・9%、「材料」10・5%となった。このうち、「仮設物、建築物、構築物等」は12年から増加し続けている。

年齢別で見ると、「40〜49歳」27・4%、「50〜59歳」23・7%が多く、全体の約5割に上

る。事業場規模別では従業員数で区分すると、「10〜29人」が36・3%と最も多く、12年から上位を占めている。

全産業における労働災害で見ると、死亡者数は928人、前年比44人減で前年をさらに下回った。休業4日以上上の死傷者数は約1万8000人、前年比約2000人増となった。